

# The Classic

どんなスタイルにもマッチするクラシックタイプ。

結局のところ長く飽きずに使える点ではクラシックなタイプが間違いのない選択であり、必ずひとつはおさえておきたいところ。革のパーツを使ったものなら使い込むほどに変わっていく表情も楽しみ。



**Eddie Bauer**

コーデュラ製デニム×スエードの組み合わせが魅力的な「キャンバスデニムバックパック」。チェストストラップは高さ調節が可能なタイプ。16L。¥12852 (エディー・バウアー・ジャパン)



**L.L.Bean**

米軍の縦型ダブルバッグを彷彿とさせる「ロッキングバック」は2層構造で、ボトム部には840Dパリスティックナイロン素材を採用。30L。¥16200 (L.L.Beanカスタマーサービスセンター)



GO OUT 4月号



**WALKABOUT BY SANPAK**

1960年代に存在したバッグブランドを実名復刻したという今季の注目銘柄。こちらはクラシックな織りネームが印象的なオールドスタイルモデル「デイハイカー」。16L。¥10800 (三信製織)



**AS20V**

防水加工を施し、軽しや染色など丹念に仕上げられた上質な北米産カウレザーを使った「ウォータールーフスエードデイバック」。PCスリーブも装備している。21L。¥34560 (アンパイPR)



**MELO**

超軽量な400Dバックロスナイロン素材を使い、鮮やかなネオンカラーで仕上げた定番のバックパック。型落ち感や色落ち感も楽しめるのも立派。19L。¥11340 (マルショウエンドウ)



**OUTDOOR PRODUCTS**

ブルー×レッドのバイカラーを霜降り調にアレンジした「デイバック」。背面&ストラップにはメッシュパッドを採用し快適な背負い心地を実現。21L。¥7344 (キタムラトレードサービス)



**KELTY**

ありそうでなかった独特のフォルムを形成した「ロッキングバック」。コーデュラナイロン素材をまとい、内部にはPCスリーブも装備している。30L。¥14040 (アリガインターナショナル)



**BATTLE LAKE**

1985年の創業以来、米ミネソタ州の自社工場生産を続ける同社。こちらはサイズやシルエットをアレンジした日本企画の「レインボーバックパック」。16L。¥15120 (メイデンカンパニー)